研究シーズ集　記載事項　　（高松世津子）

21 岐阜_研究産学連携　R8 年 5 月 1 日提出期限

〇リサーチマップ　高松世津子

[高松 世津子 (Setsuko Takamatsu) - マイポータル - researchmap]

〇和文研究シーズ集

氏名　　**高松　世津子**

E-mail　　takamatu@gifu-nct.ac.jp

職名　　**助教(一般科目　(人文))**

学位　　**博士　(文学)**

所属学会・協会　**日本宗教文化史学会　日本宗教学会　日本宗教民俗学会　東海印度学仏教学会**

〇キーワード:

日本近世仏教戒律復興　各宗への戒律伝播と社会的影響　自誓受戒　好相記　霊験

〇研究内容

私は、日本思想史・仏教史・宗教学の分野に関わる、江戸時代前半期に広がった仏教戒律復興について調べています。この分野は未研究事項が多く今後明らかにするべき興味深いテーマが複数あります。

私はその中で、近世仏教戒律復興を始めた僧たちについて、書簡や日記などの寺院資料を各地の寺で調査したり、それらの資料や、江戸時代に出版された律僧伝などを調べたりして、書き残されている内容を明らかにしてきました。それにより、江戸時代初めに戒律復興の活動が始まった状況やその思想を明確化して、スタートから 80 年後あまりの元禄時代の頃には、出版文化の発達により、戒律復興に人生を賭けた複数の律僧に関する著述が何冊も出版され、多くの人に読まれたという状況もわかりました。元禄時代の将軍綱吉による「生類憐みの令」についても、近年見直しが進み、悪評通りの事実もある一方、戒律復興の真言律僧に影響を受け、命を簡単にとらない倫理的社会を真剣に目指していたことも明らかになってきています。私はその律僧と将軍との関わりについても、研究テーマとしています。

また彼ら(律僧)は、宗派に余りこだわらず、それぞれ仏教の教えに則り、自ら行うべきと決心した活動を実施しました。当初、真言宗と元日蓮宗の僧５人で始めた戒律復興は、その後、浄土宗・臨済宗・曹洞宗・浄土宗・天台宗そして黄檗(宗)、つまり当時の宗派全ての志ある複数の僧たちに広がり、それぞれの宗で独自の戒律復興活動を実施しました。もちろん各宗派の中で、多人数を占めたわけではありませんが、戒律一派を作って釈迦の教えを守り利他行に励んだ僧が存在し、社会の倫理化に影響を与えていたことは間違いないといえます。この展開の詳細も研究テーマとなっています。

もう一つ、真摯で高名な戒律復興の律僧には、自他の記した霊験記述が残り、寺の書庫に眠っているものもあります。彼らは、日々の実践が仏説通りに仏菩薩に通じ、承認や励ましを受けたと感じていました。これについての事例研究もテーマとしています。博論の書籍化については、2027 年度前半に出版できるように進めています。興味のある方は是非お読み頂けたらと思います。